

ケアタウン小平だより

春はあけぼの臨時号 2023.2 月

認定 NPO 法人 コミュニティケアリンク東京
事務局 中川 稔進

「守り人」北條^{よさぶろう}三郎 85 歳

「おはようございまーす！ いってらっしゃい！寒いね～」 2月10日金曜の朝、予報どおりの雪が降る中、登校する児童の見守りボランティア北條さんは、一人ひとりに挨拶をし、幼児にはハイタッチをします。元気な声が響くその場所は、通勤通学路でもあるケアタウン小平南西の十字路です。ご本人によると20年近く、小学校がある朝は子どもたちを見守っているそうです。加齢とともに病を得たこともありましたが、背骨を手術しリハビリに耐え、復帰もされました。皆にみせてくれたレントゲン写真のボルト、私には勲章にも見えました。Xmasにはサンタの衣装を着て笑顔をプレゼント。元旦の十字路には、四方へ一礼を捧げる姿があります。そして小学校の卒業式、来賓席で私の横の北條さんはハンカチで涙をぬぐっておられます。

『地域を守る』ということ、18年余りに渡り教えてくれる方のお一人です。



雪の訪問看護

同じ日、訪問看護ステーションは、もちろん訪問看護に参ります。

レインスーツを着て、訪問バッグはビニールで覆い自転車で出発です。帽子とフードをかぶりますので視野がどうしても狭くなります。割に湿った雪でした。慣れない天候の運転は、いつも以上に気がついたことと思います。

車で訪問したらいいのに、と思うかもしれま

せん。私もそう声をかけます。でも、この辺の住宅街は、時に一方通行あり、混雑ポイントあり、駐車場問題あり、次の訪問予定時間の都合あり、と自転車で訪問の方が効率も気持ちの上でもいいそうなのです。限られた車両台数、きつと遠慮もあるでしょう。それぞれの訪問看護師やリハビリスタッフが、どのような想いで訪問しているかは、『ケアタウン小平だより』の各号にて語られていますので、そちらをぜひお読みいただきたいと思います。「ケアを待っている人がいる」ことがペダルを踏み込む一番の理由なのだと思います。

3年余り経ったコロナ禍、特に災禍当初の視界不良と混乱、目の前の相手は重症化リスクの高い方々、「感染しないように、させないように」とプライベートも含むその物理的・精神的負担を、私は軽々には書けません。医療、看護、介護を問わずそこにあったのは「ケアを業とする人の覚悟」であり、そうした強い言葉や美談化は馴染まない、「これが私の仕事」という職業人の淡々とした在り様でもありました。

そして、様々な規制が緩和されようとする社会の中で、それはまだ続くのです。



「今でなくていつ、私でなくて誰が」

随分前、利用者家族が雑誌記事を届けてくれました。記事は40代前半の医師が『ギルガメシュ叙事詩』※の中のこの言葉を机に貼り、自らの拠り所にして現実の課題と向き合うという趣旨の内容でした。自分の役割を携え、誰かのために在ろうとすること、北條さんや訪問看護師たちに、今回書ききれないスタッフやボランティアに、そしてコロナ禍のケア従事者に底流するのは、情熱と冷静のいずれであれ、この言葉ではなかろうか、と私の思いは行きます。

(今回は少し長め 裏面へ)



さて、当 NPO 法人理事長 山崎^{ふみお}章郎についてのご連絡です。毎日元気に仕事をしております。ご安心ください。

昨年末お知らせした桜町病院を舞台にした『がん共存療法』のエビデンス（根拠）を得るための臨床試験は、参加者が少しずつですが増えているようです。試験参加は諸条件があり簡単ではないそうですが引き続き光明が差し込むよう祈念いただけたら幸いです。

そして、山崎が最近受けたインタビューが、インターネット上で視聴出来ますので、下記のとおりご案内させていただきます。

当時 40 代前半だった彼の医師は、75 歳になりました。もう机に先の言葉を貼ることはありません。言葉は体に刻み込まれています。「変えられないつらい現実があっても、少しでも多くの人の尊厳が守られる社会」を作るため、課題を見つけては、時に風も嵐も起こしつつ、チームの仲間、古今東西の応援団とこれからも山崎は駆けて参ります。もちろん、ケアタウン小平での受け持ち利用者の診療と当 NPO 法人の理事長、3 足の草鞋で活動しています。

ところで、去年のケアタウン小平だより（17 号）で山崎が報告しておりますように、当 NPO 法人は、皆様からの熱いご支援で踏ん張ることができております。心より感謝申し上げます。引き続きケアタウン小平チームをよろしくお願いいたします。

三寒四温、春までもう少し、ご自愛ください。

山崎章郎 ビデオニュース社 インタビューのお知らせ

次の URL か QR コードあるいは、「ビデオニュース社 山崎章郎」で検索

<https://www.videonews.com/interviews/20230204-yamazaki>



約 80 分のロングインタビュー動画です。現在の取り組みやここにいたるまでの経過が語られています。本人も「うまくまとまって話せたと思う」とのこと。お時間ない方、2 倍速再生まで細かく設定できますのでご安心あれ！



※以下、フリー百科事典ウィキペディアより引用

『ギルガメシュ叙事詩』（ギルガメシュじょじし）は、古代メソポタミアの文学作品。実在していた可能性のある古代メソポタミアの伝説的な王ギルガメシュを巡る物語。人間の知られている歴史の中で、最も古い作品



この十字路で、今日も明日も明後日も、北條さんは子どもたちの成長と安全を見守ります。

